事務事業評価シート　対象事業年度　平成 26 年度

コード

施05事102

1 PLAN（目的・概要）

建設整備事業

政策名		安全	25年度事業・施策評価結果			責任者	企画調整室 事業担当課長
施策名		港の安全性・信頼性の向上		成果	コスト		
事務事業名		防潮壁（改良）整備事業				連絡先	052-654-7921
						連携課	工事課、港湾工事事務所
目的	対象（誰・何を）	防潮壁（護岸）				事業期間	平成19～30年度
	意図（どういう状態にしたいか）	地震対策及び老朽化対策として防潮壁（護岸）を改良し、海岸保全施設の機能を回復・強化します。					
概要		整備場所：名古屋市港区潮凪ふ頭、大手ふ頭、築地・ガーデンふ頭、築地東ふ頭、昭和ふ頭、潮見ふ頭 内容・規模：液状化対策及び老朽化対策、防潮壁4．4km 総事業費：100億円 事業手法：社会資本整備総合交付金（全国防災）、防災・安全交付金（高潮対策事業、海岸堤防等老朽化対策緊急事業）				根拠法令等	社会資本整備重点計画法 海岸保全基本計画
事業着手時点の評価		背後地盤が低く、防潮壁の周辺地盤の液状化により堤防の機能が失われた場合の影響が大きいため地震対策として液状化対策を行い、また、老朽化した海岸保全施設の改良等を行うことで背後地域の生命・財産を守ります。				実施義務	□有 ☑無
26年度の実施予定		・鴨浦地区の護岸補強整備を行うとともに、新たな整備地区の基本設計、実施設計を行う予定です。 ・老朽化対策として空洞化調査を行う予定です。				関連シート	

2 DO（実施）

26年度に実施した内容・結果	地震対策として鴨浦地区護岸補強を行いました。また、築地・ガーデンふ頭、築地東ふ頭、潮見ふ頭の基本設計、実施設計を行いました。 老朽化対策として大手ふ頭、中川口、ガーデンふ頭、昭和ふ頭、船見ふ頭護岸の空洞化調査を行いました。

コスト	単位	24年度	25年度	26年度	合計（平成19年度～）	備考（費用の増減理由等）
事業費	千円	372,800	277,100	107,700	959,380	
人件費	千円	9,326	9,075	9,426	74,962	
合計	千円	382,126	286,175	117,126	1,034,342	

3 CHECK（検証）

指標名		24年度	25年度	26年度	最終目標 30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
整備延長（km） （進行管理型）	目標	－	－	1.44	4.4（累計）	整備延長は、改良が完了した延長です。	
	実績	0.70	0.74	0.94			
	事業進捗状況（26年度）			順調 ・ やや遅れ ・ 遅れ			
	目標						
	実績						
	事業進捗状況（26年度）						

目標の達成度に対する評価（外部要因等を踏まえた）	国費内示減の影響により、事業進捗が遅れております。 愛知県の設定条件（地震動波形等）が変更したため、修正設計等で着手が遅れましたが、これから着手する地域での手戻りを防ぐことができ、事業費の増加を抑制することができました。

必要性・有効性・効率性の検証		評価	評価に関する説明
必要性	事業着手時に比べ必要性が低下していないか？	○	背後地域の生命・財産を守るため、必要性は高くなっています。
	事業費規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか？	○	
有効性	事務事業は、施策達成に貢献するか？	○	防潮扉の改良による機能強化は上位施策である「港の安全性・信頼性の向上」に貢献すると考えております。 防潮扉の改良を行った扉については、閉鎖時間の短縮など防災面での確実性が向上することから、成果が得られていると考えております。
	期待どおりの成果が得られているか？	○	
効率性	最小のコストとなっているか？	○	設計の段階から最小のコストとなるように取り組んでいます。

4 ACTION（取組）

施策評価結果	27年度以降の方向性			判断理由
		成果	コスト	
	継続	拡大	拡大	・整備に必要な予算確保に努めるとともに、早期に整備を推進する必要があるため。
		資源（財・人）の投入を拡大し、取組を強化することによって、成果をあげる必要がある。		

課題	27年度以降の取組
名古屋港における防潮壁は、地震時、沈下による天端高不足や施設の老朽化が顕在化しており、防護機能の低下が懸念されております。そのため、優先的に液状化対策を進める区間については、早急に対策を行っていく必要があります。	早急な事業進捗を図るため、交付金事業の予算獲得に向けて国へ強く要望をしていきます。